

宮越社長インタビュー②:「目指すはアジア最大のイノベーション・センター」

——イノベーションが再開発のコンセプトになりました。さて、どんなものを作ろうとしているのですか。

「イノベーション都市を掲げる深圳市に相応しい施設にしたいと考えました。深圳市は国の改革開放政策でも先頭を走ってきましたが、イノベーション駆動政策でもトップランナーとなるべく意欲的な政策を相次いで打ち出しています。代表的なものを挙げると昨年発表した「マンハッタン（金融）＋シリコンバレー（ハイテク）化計画」です。我々の再開発用地がある同市中心部の福田区をフィンテック＋ハイテクの進化した地域に造り変え、深圳市全体を香港、マカオを含む華南地域の中心都市に発展させると宣言しました。我々は深圳市の意欲的な計画を受け、アジア最大規模のイノベーション施設をつくりたい。それには世界でいまだどんなイノベーションが進行しているのか、その技術、機能なども含めた情報がいち早く入手できる場所であり、自らの先端的イノベーション情報を世界に向け発信できるようになりたい。こんな思いもこめて計画をWIC（ワールド・イノベーション・センター）としました」

「深圳市内にイノベーション関連の施設はあちこちに点在しています。これはシリコンバレーも同じですが、我々を作るからにはシリコンバレーにないものを目指そう。すなわち、様々なイノベーション関連の機能を1か所に集める、そこを覗いてみればイノベーションに関することは何でもそろっている、というものにしよう。具体的には共同研究施設、実証実験設備、試作工場、ワーキングスペースなど、研究から商品の初期製作までの工程を備えた総合的なイノベーション・センターにする。いわばイノベーションのワンストップショッピングみたいなものです。そこに中国国内はもとより世界からイノベーションに熱心な有力会社を500社集めようという構想を市に提案しました。市もそれは素晴らしい、応援しましょうと大賛成してくれた。市政府のイノベーション担当の幹部は実現すれば外資ではNO.1の施設になりますよ、と太鼓判を押してくれました」

——世界の有力企業が500社も集まるとなると、大変な集積のメリットが出ますね。

「1か所に集まるだけでも大きな効果が期待できますが、我々はメリットを最大限引き出す環境を用意します。それは参加企業が利用できる構内情報システムです。このシステムを通して参加各社は売りたい商品は何なのか、買いたい商品は何なのかから始まって、技術、アイデア、ノウハウ、様々な課題に対する問題意識や解決策などを提示出来ます。さらにはそれぞれの担当者・適任者・責任者は誰なのかまで、必要に応じて情報を共有したりマッチングしたりできるようにしたい。互いの情報を持ち寄り、ぶっつけ合ったり、高め合ったりすることができるようになる。それでエネルギーが蓄積され、革命的な新製品や新技術を生

み出すことにもなる。これぞまさにイノベーションへの出発点です」

「情報システムを装備したW I Cのビジネスがどう変わるか、別掲のイメージ図を参照しながら考えてみてください。あの広大な中国には沿岸部、内陸部、東北地方などに有力企業の本社は分散している。W I Cにはそんな企業がオフィスを構え、研究、開発、営業などのチームを駐在させている。駐在員は情報システムでテーマごとに相手先企業や担当者を見つけ出し声をかける。もちろん担当者はテーマに精通した適任者であり、責任者だ。面談の必要があれば、移動はエレベーターです。分刻みのスケジュールで中国各地に本社がある企業のオフィスを駆け巡ることだってできる。例えば、W I Cの5階で重慶の会社と会議した後、18階で上海の会社と商談を詰める。中国全土はおろか世界中を飛び回ってようやくできるビジネスがW I Cに居ながらにしてできるようになります。交渉を進めるうえでテーマが明確で人選に間違いがなければスピードは格段に速まる。どんどん仕事ははかどる。仕事をやったことがある人には分かる。これは堪えられない魅力になります。また、W I Cが商品、技術、各種情報の取引センター機能をもつことを意味します。かの有名な広州交易会は春夏の2回、各6日間開催されますが、ここは毎日、交易会が開かれる場所になります」

日本企業、中国企業、スピード商談も実現

広大な中国がW I Cに集結



中国全地域の主要企業との商談も、W I C内では1日で完結
効率的な営業でビジネスチャンス到来！

(イメージ図)

——本丸のイノベーション支援でも構内情報システムは活躍しそうですね。

「W I C内の情報共有はもちろん重要ですが、強調しておきたいのはお膝元の深圳市はイノベーション情報の宝の山なのです。深圳には華強北という世界最大の電気街があります。必要なものがなんでも揃うから人が集まり、あのものすごい喧噪を生み出しています。深圳では起業家はアイデアさえあれば開発や設計、製造部門を持たなくても新製品を素早く世

に出すことができるといわれる。どんな部品でも入手できるからです。あれもこれも豊富で多様なハイテク電子部品の製造インフラが多くは中小メーカーによって支えられ、いまなお健在だからです。起業家が育ち易い理由でもあります。国策の「大衆創業、大衆創新」の優等生の土地柄なのです。ハード面でこの強みはシリコンバレーも舌を巻く深圳のすごいところ。W I Cは大企業中心の構成になりますが、世界的に有力な電子部品メーカーも呼び込みたいと考えています。我々はイノベーションを推進するうえで深圳という恵まれた環境に立地している。こうした深圳のヒト、モノ、技術のハイテクインフラ情報を情報システムに取り込み、W I Cの500社と連携できるよう生かしていきます。W I Cは深圳という環境の中にあるから輝きを増します」

以上